



ひるの星

No. 275

もくじ	
アブドル・パハの言葉.....	2
モナの宝石の魔法.....	3
クイズ.....	8
糸（細いひも）が描く芸術.....	9
点つなぎの絵	10
みんなの写真.....	11
保護者のページ.....	12

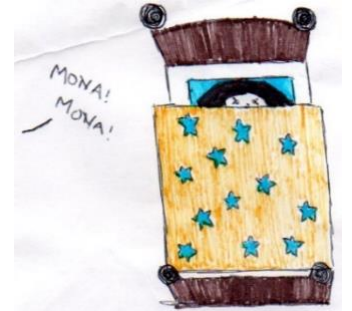
汝、努力せよ。
されば、太陽の下に汝の
居場所が定められ、
目もくらむその光を
あふれるほど
授かれよう。

アブドル・バハ

モナの宝石「涙の雫」の魔法



「『モナ！モナ！』お母さんがわたしを呼ぶ声が聞えてきました。目を開けると、まぶしい朝日の中に、お母さんがわたしをのぞき込んで立っていました。首には金のチェーンにつながれた宝石が光り輝いていました。今まで見たこともない、とても美しいものでした。うすいコーヒー色で涙の雫の形をした水晶という、その宝石にはバハイのシンボルが刻まれていました。宝石に目を奪われているわたしを見て、『きれいでしょ？』と言いながら、お母さんはその宝石を裏返して見せました。『これは人生でテストに会うとき、助けてくれる魔法の宝石なのよ。』



そうだ！そういえば、わたし、これから、学校で大事な漢字テストがあったんだ！前の晩はそれを心配しながら、寝てしまった。わたしは海外から日本に帰ってきて3年で、日本語のテストでは他の子より大分遅れていました。自分は賢くないのかなあとも思っていました。

わたしは急いで学校へ行く支度をしました。それを見ながら、お母さんが言いました。

『テストがうまくいくようにお祈りするからね。それじゃ、気をつけて行くのよ。』

わたし/はしばらく立ち止まって考えました。そうだ、漢字テストに合格するには、あの宝石の魔法の力を借りなくちゃ！数分おいて、お母さんが居眠りしている部屋に、そっと忍び込んで、静かに宝石箱を開けました。見つけた！魔法の宝石を見つけました！これでテストは合格できるぞ！わたしはしっかりとその宝石をつかんで、急いで家から飛び出しました。



学校で机に向かったとき、こんなことをしている自分がはずかしいと感じ始めました。しかし、頭を横に振って、『いや、待てよ！このテストには合格しなくちゃ！』と自分に言い聞かせて、宝石をつかんでいる手のひらを開きました。そして、魔法の言葉を見ようと、宝石を裏返しにし/てみました。それがわたしのテストの答えを教えるはずでした。でも、そこに書かれてあったのは、

神よ、あなたはわたし自身よりもっとわたしに親しい御方におわします。

これだけでした。たった一つのこのお祈りのために自分をはずかしいと感じてきたなんて！？わたしはとても腹が立ちました。こぶしでその宝石を握りつぶして粉々にしてやりたい気持ちになりました。思わず手のひらを開くと、本当にゼリーのように粉々になっていました。これでは漢字テストでよい成績がとれるわけがありません。他の子がこんなわたしを見て、きっと『かわいそうな女の子、



ハーフはどんな言葉も上手にならないんだな。この子は賢くない!』と言うでしょう。わたしは泣き出しました。テストは涙でかすんで見えませんでした。手に落ちてきた涙の雫が冷たく感じられました。その涙は光り輝いて、とてもまぶしいくらいでした。

ベッドで、わたしは大きく目を開けて、わたしを明るく照らす太陽を見上げていました。何と、みんな夢でした。ホッとしました。突然、手に何か感じました。あの宝石だったのです。お母さんがバハイになったときに手に入れたものでした。表にバハイのシンボルがあるけれど、裏には何もありません。チェーンが通るはずのところは、割れ目があって欠けているのです。弟のアスマが壊してしまったものだから、お母さんがわたしにくれたのでした。テストを心配するあまり、それを手にしたまま眠ってしまったようです。テスト! そうだ! 今日、漢字テストがあるんだ! ベッドから飛び降りて急いで着替えると、家族と朝のお祈りをする部屋に駆け込みました。みんな待っていました。わたしは急いで座ってお祈りの本を開けました。わたしの番になりました。

神よ。わたしの精神を活気づけ喜ばせたまえ。わたしの心を清め、わたしの力を輝きあるものとなしたまえ。わたしはすべてをあなたの御手にゆだねました。

あなたはわたしを導きたもう御方におわし、また、わたしのかくれ家にまします。もう、わたしは悲しみもせず、悩みもせず、幸せな喜びに満ちたものになります。神よ、わたしはもう憂いに心を満たすこともなく、困難にも負けず、また、人生の不快なことにもわずらわされません。神よ、あなたはわたし自身よりもっとわたしに親しい御方におわします。おお主よ、わたしのすべてをあなたにささげます。

実際の宝石にはないけど、この中の言葉がわたしの夢の中の宝石に書かれてあったのです。それが、

神よ、あなたはわたし自身よりもっとわたしに親しい御方におわします。

夢の中ではこれを理解していませんでした。しかし、今は理解できます。

お祈りの後、テストと、このお祈りのことを考えながら、走って学校へ行きました。学校に着いてからは、友達がおしゃべりをしたり、遊んだりしているのに、わたしは休み時間にはテストの準備をしました。だからテストの時間になっても、ポケットに魔法の宝石があると、準備したので自信がありました。

学校から家に歩いて帰る途中、お祈りするのは何のためか考えました。わたしたちが望むものは何でも神様はくださるわけではないと、思いました。母親だったら、子どもが泣いて欲しがっても、夕食の代わりにキャンディをあげはしないでしょう。母親は愛する子に何が一番良いか知っているからです。もちろん、神様もわたしたちに同じようなことをされます。わたしの夢の中で、宝石はテストの答えを教えませんでした。それはわたしのためからです。おかげでテストの勉強ができて、合格し



めに良くなかった
した。

これからも、正しい道を歩むように神がわたしを導いてくださるのを信じて、その努力をしなくてははいけません！涙の雫の宝石よ、いつまでもわたしの宝でいてね。これでおしまい！」

モナがお辞儀をして、お話を終えました。アスマ、リアズ、シャラ、アニサ、お父さん、お母さんとで、素晴らしいお話を拍手をおくりました。

「わお！これって、本当にあった話かい？」リアズが驚いて聞きました。



「そうよ。」とモナがほほ笑んで答えました。

「お母さんのネックレスをおれが壊したから、この話になったんだから、おれに感謝すべきだな。」とアスマが笑いながら言いました。

「たくさんバハイが、そんなネックレスをしているのを見たことあるわ。指輪もね。」とシャラが言いました。

「それが魔法なのを、みんな知っているの？」とアニサが聞いたので、みんなが笑ってしまいました。

「バハイのシンボルがあるのを身に着けている目的はだな…」とお父さんが真剣な顔をして続けました、「…それを見て、バハオラを通して神様とつながって、我々が精神的存在だと知るためだ。そして、そのように行動するためなんだ！」

「それをこんなふうにして聞いたよ。」と言って、アスマが続けました。「バハイのシンボルを見て我々は何者か、我々はどのような行動をとるべきかを忘れないためなんだ。」

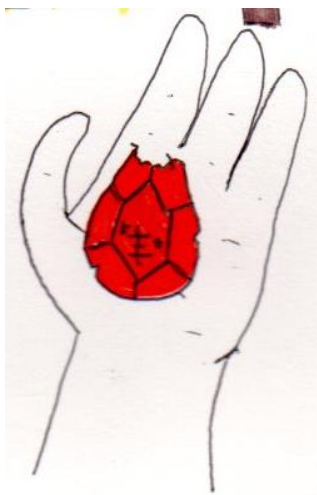
「今の説明は簡単でわかりやすいわね。」とモナが感心して言いました。

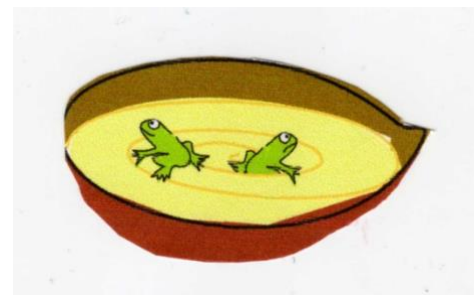
「モナの確証についてのお話は、素晴らしかったわ。いいお話をありがとう。」とお母さんがほめました。

「確証って、何なの？それがモナの話とどういう関係があるの？」とシャラが聞きました。

「確証とは、一生懸命努力すること、そうすれば、神様が手伝ってくださることなのよ。テストに合格するには一生懸命勉強するように、神様はモナに夢で教えたのよ。」とお母さんが説明しました。

「そのお話に似ているのが、生クリームの中に落ちた二匹のカエルのお話だな。」とリアズが大声で言いました。





「一匹のカエルは生クリームから抜け出すのをあきらめてしまうのよね。」とシャラがつけ加えました。

「もう一匹はあきらめずにけり続けたら、生クリームがとうとう固いバターになったんだ。」と、リアズがつけ足して、次に二人で口をそろえて、

「その一匹は、ついに抜け出すことができたんだとき。」

「あきらめていたカエルも助かるんでしょ？」アニサが心配そうに聞きました。

「もちろん、アニサ、そうなるといいんだけどね。あきらめたらダメね。テストにあきらめずに神様が与えた、ける力を尽くしたのは、助かったんだけどね。固いバターになったところで、のりこえたのね。」とモナが答えました。

「モナ、お願い。もう一度、その宝石、見せて。」とシャラが頼みました。

「わたしも魔法の宝石が欲しいなあ！」とアニサが言って、シャラと穴が開くほどその宝石をじっと見ました。お母さんがほほ笑みながら、言いました。

「みんな！十五才になったら、お母さんがバハイのネックレスか指輪をプレゼントするからね。いいわね？」

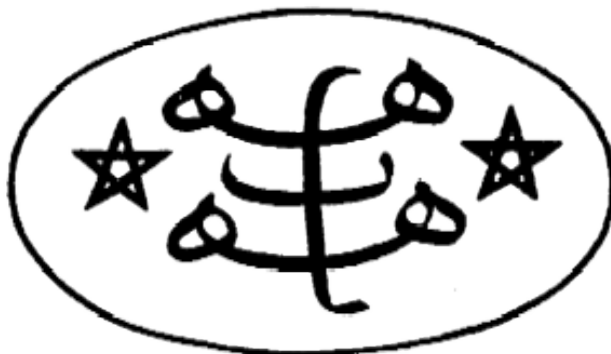
「おれはネックレスなんか、いらねーからな。女の子じゃないし。」とリアズが声を上げて言いました。「それじゃ、男物のいぶし銀のうで輪はどう？」お母さんが笑いながら言いました。

「それ、いいなあ。決まった！」リアズが賛成しました。

お父さんとお母さんが一休みしてコーヒー・タイムと言って、笑いながら部屋から出て行きました。子どもたちはモナの話の感想と確証のたとえ話に花が咲きました。それから十五才になったら、どんなバハイのシンボルのものを身に着けるかで、みんな、心わきたちました。

挿絵：アンネット・バーゲンテール (13才)

Annette Bergenthal



クイズ

1. モナが夢の中で心配していたのは、何でしたか？

2. モナが夢で宝石箱から見つけたのは、何でしたか？

3. 見つけたものが、何をやるはずだとモナは思っていたのですか？

4. モナが夢で見た宝石には、何が書かれていましたか？

5. 夢の中で、モナのテストに宝石は役に立ちましたか？

6. 夢ではない、目の前の宝石はどうやってモナの宝石になったのでしょうか？

7. 目の前の宝石には、何が書かれていたのでしょうか？ 答えは短い言葉で。

8. モナは実際のテストではどうやって合格したのですか？

9. このお話で、モナは何を習ったのでしょうか？

10. なぜバハイのシンボルを身に着けるのでしょうか？

どうでしたか？ みんな答えられましたか？ 答えは保護者のページにあります。



糸(細いひも) が描く芸術

材料: *二枚重ねにする白紙

*絵具

*糸(細いひも) または毛糸

*はさんだ糸を引き抜くとき、二枚重ねの紙がずれないように

押さえつける分厚い本

やり方: *一本の糸(細いひも) を上中下と下と分けて、上中下の部分をそれぞれ違う色の絵具に浸す。そのとき、絵具が滴り落ちるようなら、指でつまんで絞りとる。

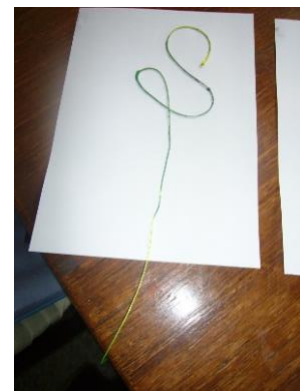
*糸を紙に垂らしながら、上中下と順に紙に大波小波のようにくねくね左右に揺らす。輪になっても重なってもよい。

*もう一枚の紙をその上にのせて、さらに分厚い本をのせる。

*二枚重ねの紙がずれないように分厚い本で押さえ、素早く糸を引き抜く。

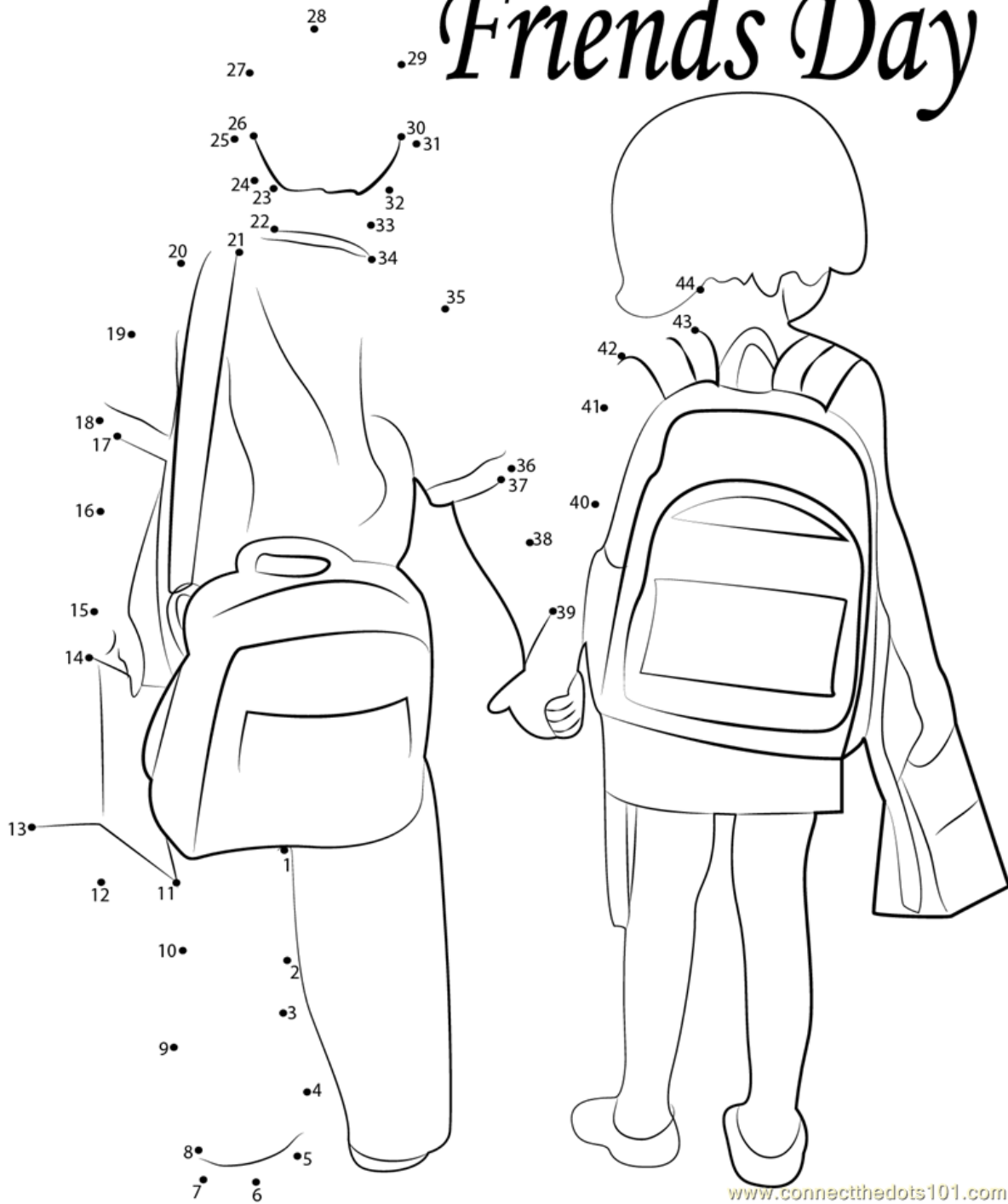
*分厚い本ともう一枚の紙を、さっと取り除く。

*色も、その組み合わせも変えて、いろいろな絵になるのが楽しみですね。



点つなぎの絵

Friends Day



写真のページ

保護者のページ

バハイのシンボル、
その目的と意味



バハイが身に着けるネックレスの宝石、指輪などにはバハイのシンボルがデザインされている。それは、人間に、特にバハイにデザインを見ることで神の目的を思い起こさせるためである。これでバハイであることに気づく機会も増えて、信仰も強くなって神ともっと対話するようになり、布教と宣布のときにも、これが役に立っている。

その意味

デザインの3つの水平線は次のとおりです。上から



◀ 神の世界、つまり創造主の世界



◀ 神の顕示者の世界



◀ そして人間の世界



◀ たての線は、神の顕示者の世界が、神と人の間にあって、三つの世界のつながりを表すよう、3つの水平線に結びついています。



◀ デザインの両側にある一対の5つ星は、この時代の一対の神の顕示者であるバブとバハオラを表しています。

このデザインは、アブドル・バハによって設計され、親友であり、ペルシャの偉大な書家であるシキン・クアラムによって制作されました。

このデザインに使われたバハイのシンボルは、彼のオリジナル・デザインをそのまま再現したものです。

クイズの答え：1) 漢字テスト 2) 魔法の宝石 3) モナにテストの答えを教える 4) 神よ、あなたはわたし自身よりもっとわたしに親しい御方におわします 5) いいえ 6) アスマが壊したので、お母さんからもらった 7) お祈りの言葉 8) テストの準備をした 9) 努力することが大切 10) バハオラから神を知り、神に感謝することと従うのを忘れないため



3 か月毎に発行されている「ひるの星」は、白黒印刷で日本全国精神行政会に注文できます。
nationaloffice@bahaijp.org

275 号 9 月 2018 ヌール B E 275

以下のリンクにアクセスすると、「ひるの星」をカラー印刷することができます。

<http://hirunohoshi.weebly.com/>

日本バハイ全国精神行政会

〒160-0022 東京都新宿区新宿 7 丁目 2 番 1 3 号

電話：03-3209-7521 F A X：03-3204-0773

ひるの星委員会：グレン・ロウ、古市恵美、荒木由紀子、平原静志、平原ルアナ

お話と工作：平原ルアナ、平原静志

点つなぎの絵：www.connectthedots101.com

写真：ウィキペディア、平原ルアナ、尊田イヴァ、グレン・ロウ、

さし絵：アネット・バーゲンテール、エイドン・ブフホルツ、スティーヴ・パスカル、グレン・ロウ、

テクニカルアドバイザー：グレン・ロウ

編集：平原ルアナ 和訳：平原静志 監修：野口メアリ、安藤宏子